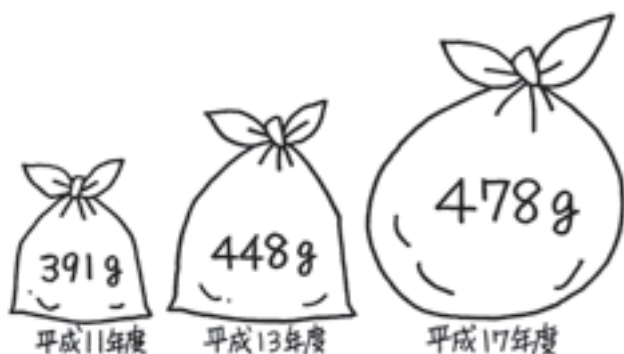


ごみを減らす

わたしたちが生活する上で切っても切れないもの、ごみ。年々増加し続け、環境破壊の原因にもなっています。

そのごみの中でも一番身近である「可燃ごみ」について、一緒に考えてみましょう。

一人当たりのごみの量



増え続けるごみ

昨年度、一般家庭から出された可燃ごみは、市全体で9、206トンでした。平成11年度と比べて、人口は1・1倍しか増えていないのに、ごみの量は、1・3倍（11年度6、890トン）になっています。

一日に出る一人当たりのごみが、391グラムから、478グラムに増えたことになりました。一日一人たった87グラムの増加ですが、一年では32キログラムとなり、全体にはとても大きな影響を与えています。

しかし、一人一人の心掛けで、ごみは減らすことができます。

資源がごみに・・・

可燃ごみとして出されているごみの中には資源として利用できる物がたくさん含まれています。

例えばペットボトル、牛乳パック、食材のお皿として使われているトレイ、新聞、雑誌、チラシといったものです。

これ以外にも資源として利用できる物として、お菓子やティッシュペーパーの箱、トイレットペーパーのしん（無香料のみ）、割りばしもあるといふことを、皆さん知っていましたか。

可燃ごみを出す前に、一度ごみ袋の中をチェックしてみてください。



水切りで経費節減

家庭から出たごみは収集された後、「ささゆりクリーンパーク」で処理されます。

この施設で必要な経費は、ごみの重さによって決定され、皆さんが収められた税金から支払われます。

つまり、可燃ごみの中の水分が、多ければ多いほど重量が増えて、市が払う経費が増えることになります。

各家庭から出る生ごみなどの水分を、1滴2滴でも多く切るように心掛ければ、ごみの重さを減らすことができ、経費の節減につながります。

